

コンサート

こぢんまりとしたホールに響いたのは
僕と君のかすかなふるえのようなヴァイオリン
ブラームスは海の香りがする

君は何かを夢見るように拍手をする
そんな横をドイツ人形たちが駆け抜ける
まるでその夢に花びらを撒くように

木枯らしが君と僕を押し戻そうとする帰り道
君は短調が好きとうつむいて言う
落ち葉を楽しげに踏みしめながら

そんな君の肩も抱いてやれず
僕はただ君の横を歩きながら言った
「来てくれてありがとう」

(1984.2.13)